

「学びの共同体」としての 学校づくり

牛久市立ひたち野うしく小学校

ひたち野うしく小学校では「**学びの共同体としての学校づくり**」を進めています。それは次のような学校です。

子どもたちが学び育ち合う場所
教師も専門家として
学び育ち合う場所
保護者や市民も教育活動に
参加して学び育ち合う場所

「21世紀型の学校」はこのような姿をしています。

学びの共同体を構成する**3つの要素** 学校は・・・

- **民主的な組織**：全ての子どもたちの学びが保障されることが求められます。
- **公共の空間**：多様な考えを交流するために教室が内外に開かれています。
- **卓越性追求の場**：他との比較ではなく自らのベストを尽くして最高のものを追求することに価値を見出すところです。

具体的に学校で行うこと

- **聴き合う関係**を基盤とした次のような**「活動システム」**を取り入れます。このことで、どのクラスにも学び合うための空間がつくられます。

【活動システム 1】 教室で取り組むこと

- 男女混合の**4人グループ**での活動を主とする。
(低学年では**ペア**)
- わからなかったら「**ここどうするの？**」と友だちにたずねることを習慣化する。
- できそうでできない課題に出会わせることで「**ジャンプのある学び**」を実現する。

【活動システム 2】 教師が心がけること

- 「聴く」「つなぐ」「もどす」の3つに専念する。
- 声のテンションを落として、話す言葉を選ぶ。
- 子どもの学ぶ様子に応じて即興的・創造的に授業をつくる。

【活動システム 3】 学校運営として実施していくこと

- 全ての教師が同僚に授業を公開する。
- 授業の観察にもとづく事例検討会をもつ。
- 事例検討会は子どもの学びの質を高めることを目的とする。
- 教師がどう教えたかよりも、子どもがどう学んだかをていねいに検討し合う。

【活動システム 4】 保護者や市民の皆様に

- **いつでも授業を参観**できるようにする。
- **学習に参加**して子どもとともに学ぶ機会をつくる。
- **授業をつくる支援**をしていただく機会をつくる。

【活動システム 5】 他の学校との関わり

- **校内研修を公開し、参加者から批評を受ける。**
- **他の学校の授業研究会にも参加し、自らの授業力向上を目指す。**

**学びの共同体の活動システムを
取り入れることで期待されること**

子どもはこう変わる

- 子どもは協同的な学びを通して**友だちとの関係がよくなり、自己有用感をもつ。**
- 子どもは学級に心の居場所ができて、**安心して学びに向かうことができる。**
- 子どもは多様な考えを聴き合い、**論理的に説明し合うことで思考力が高まる。**

教師はこう変わる

- 教師は子どもの学ぶ様子に応じて柔軟に授業をデザインする。
- 教師は子どもがより夢中になれるような興味深い課題を考える。
- 教師は同僚の授業から学びながら自分の授業の質を高めていく。

保護者や市民の皆様は

- 保護者は自分の子どもの**学ぶ様子を見て子ども理解をさらに深める。**
- 子どもと**学習内容を共有することで親子のコミュニケーションが活性化する。**

学びの共同体としての学校では

- 聴き合うことで個々の存在が認められ、子どもたちの**自己有用感**が高まります。自己実現に向けて安心して生活し、学べる環境がつくられます。
- 本校は、**校長を始め全教職員**で、学び合う学校づくりに取り組んで参ります。
- そのためには、**保護者や市民の皆様のご理解**とご協力が**必要**です。

内外に開かれた学校として

- そのために、学校内では、**同僚に授業を開き、互いに授業力を高め合う研修**を行います。
- 学校外の皆様には、**保護者や地域社会の皆様**に学校を開き、**公共空間としての役割**を果たしていきます。